

ドイツ大連立を占う2つの出来事

～SPD党首選と旧東独地域の州議会選挙～

第一生命経済研究所 調査研究本部 経済調査部
 主席エコノミスト 田中 理 (Tel: 03-5221-4527)

- ◇ 連立に加わるSPD党首選の初回投票の結果が判明し、大連立と均衡財政の継続を主張するショルツ財務相とゲイヴィッツ・ブランデンブルク州議会議員のペアが最多票を獲得したが、過半数に届かず、連立解消と財政拡張を主張するワルター・ボルヤンス＝エスケン・ペアと決選投票を争う。ショルツ＝ゲイヴィッツ・ペア以外の候補は連立解消・財政拡張派で、落選候補を支持した党员が連立解消・財政拡張で結集する可能性もある。SPDは12月初旬の党大会で連立継続の是非を判断するとしており、決選投票の行方が連立継続の判断に大きな影響を及ぼしそうだ
- ◇ 旧東ドイツのチューリンゲン州で行われた今年最後の州議会選挙は、左翼党とAfDの左右両極の非主流派政党が合わせて50%以上の票を獲得し、第1党と第2党を独占。東西ドイツ統一後、同州で第1党の座を死守してきたCDUは第3党に転落、SPDも統一後で最低の支持に沈んだ。旧東ドイツ地域での主流派政党の苦戦を改めて浮き彫りにした。旧西ドイツの都市部では緑の党が支持を大きく伸ばしており、二大政党を軸としたドイツの政治安定は曲がり角を迎えている。

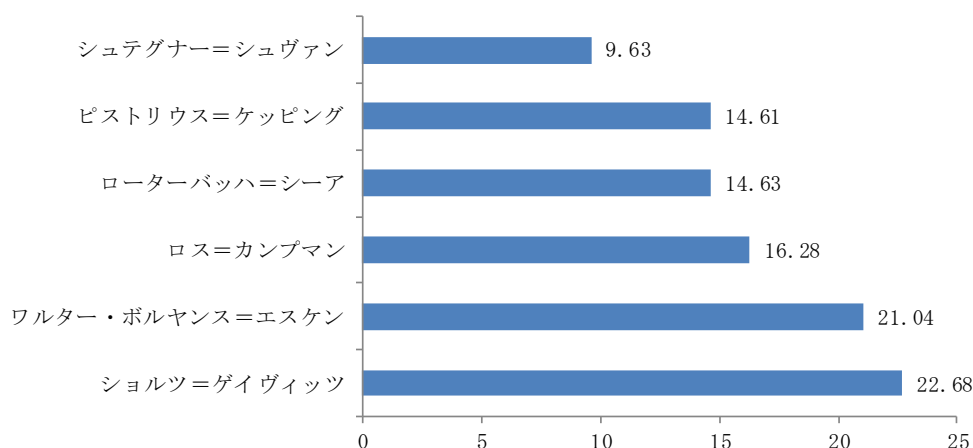
ドイツのメルケル首相が率いるキリスト教民主/社会同盟 (CDU/CSU) と社会民主党 (SPD) による大連立政権は、連立内の不協和音、連立パートナーの支持低迷、メルケル首相の健康不安、後継首相候補のクランプ＝カレンバウアCDU党首兼国防相の不人気など、様々な不安要素を抱えている。その大連立の行方を占うSPD党首選の初回結果発表と今年最後の州議会選挙が週末に行われた。

連立内で独自色の発揮に苦慮するSPDは、緑の党に左派第1党の座を脅かされており、12月6～8日の党大会で連立継続の是非にどのような判断が下されるかに注目が集まっている。5月の欧州議会選挙で歴史的な敗北を喫したSPDはナーレス党首が引責辞任した。現在、後継党首の選出手続きを行っており、12月の党大会で新たな党首が任命される。この後継党首の人選が今後の連立継続の是非や財政運営にも大きな影響を及ぼすとみられている。

今回の党首選は、単一候補として立候補するか、共同代表として男性1名・女性1名のペアで立候補するかを選択する。投票は約40万人のSPD党员を対象に郵送もしくはオンライン投票で行われ、10月14～25日の初回投票で50%以上の票を獲得した候補がない場合、11月19～29日に初回投票の上位2名による決選投票が行われる。26日に判明した初回投票の結果は、現政権で副首相兼財務相を務めるショルツ氏とブランデンブルク州議会議員出身のゲイヴィッツ氏のペアが22.7%の最多票を獲得したが、過半数に届かなかったため、21.0%で次点を獲得した元ノルトライン＝ヴェストファーレン州財務相のワルター・ボルヤンス氏と連邦議会議員のエスケン氏のペアとともに決選投票に臨む(図)。

ショルツ＝ゲイヴィッツ・ペアが大連立と均衡財政の継続を主張するのに対して、ワルター・ボルヤンス＝エスケン・ペアは連立解消と財政拡張を主張する。後者は連立継続の条件として、インフラ投資の拡大や格差是正への取り組みを掲げている。初回投票で落選した他の候補も揃って連立解消と財政拡張を主張しており、決選投票でワルター・ボルヤンス＝エスケン・ペアの逆転勝利も視野に入る。党员による一連の党首選出手続きに拘束力はないが、党執行部は投票結果を無視する可能性は低い。決選投票の結果は11月30日に発表され、12月初旬の党大会で後継党首が任命される。

(図) SPD党首選・初回投票の得票結果 (%)



出所：SPD資料より第一生命経済研究所が作成

旧東ドイツのチューリンゲン州で27日に行われた州議会選挙は、旧東ドイツの共産党の流れを汲む左翼党が31.0%の支持を獲得して第1党の座を獲得、右派ポピュリストのドイツのための選択肢(A f D)が23.4%でこれに続く第2党に躍進、東西ドイツ統一以来、第1党の座を死守してきたCDUは21.8%で第3党に転落した。SPDの支持率は8.2%にとどまり、こちらも統一後の過去最低を更新した。9月1日に行われたザクセン州議会選挙でCDUが、同日行われたブランデンブルク州議会選挙でSPDがそれぞれ第1党の座を死守し、二大政党の党勢悪化に歯止めが掛かったとの見方もあったが、今回の州議会選挙は両党の苦戦を改めて示す内容となった。

同州ではこれまで左翼党、SPD、緑の党が左派連立を組んできたが、今回の選挙結果から3党で過半数には届かない。CDUは左翼党やA f Dとの連立を拒否しており、安定政権の樹立は困難な状況にある。ドイツでもオランダのような多党連立が必要な段階に入ってきた。チューリンゲン州のA f Dは党内最強硬右派のヘッケ氏が率いている。2014年の前回州議会選挙から獲得票率を倍増させたことを受け、A f D内の最右派勢力が勢いづく恐れもある。

旧東ドイツ地域では今回の州議会選挙のように、左翼党の勢力が引き続き強いというえ、右派ポピュリスト政党のA f Dの躍進が著しく、主流派政党にとって脅威となっている。旧西ドイツの特に都市部では、若者の環境意識の高まりで緑の党の躍進が続いている。CDUとSPDの二大政党を軸にしたドイツの安定政治は曲がり角に来ている。

以上

本資料は情報提供を目的として作成されたものであり、投資勧誘を目的としたものではありません。作成時点で、第一生命経済研究所調査研究本部経済調査部が信ずるに足ると判断した情報に基づき作成していますが、その正確性、完全性に対する責任は負いません。見直しは予告なく変更されることがあります。また、記載された内容は、第一生命保険ないしはその関連会社の投資方針と常に整合的であるとは限りません。